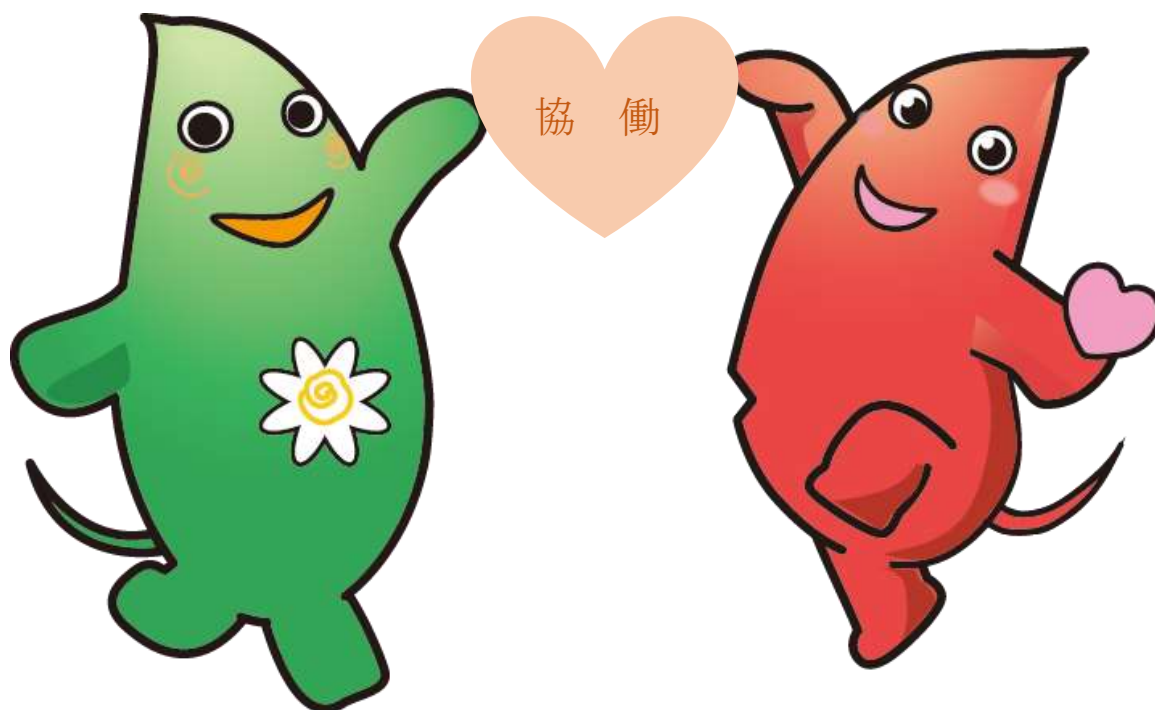




市民活動のシンボルマーク「あの手この手」
Solution(解決)のSを表しています。

令和6年度 大和市 協働事業活動報告書



大和市イベントキャラクター ヤマトン

大和市 つながり推進課 / 大和市民活動センター

令和6年度実施 協働事業一覧

◆令和5年度提案事業（令和6年度実施事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
1	地域をチームに！スポーツを活用した持続可能な地域コミュニティづくり	行政提案型	NPO法人やまとスポーツマネジメント／旧：生活あんしん課	1

◆令和5年度提案事業（令和6年～8年度実施事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
2	大和市民活動センターの管理運営	行政提案型	拠点やまと／つながり推進課	6

◆令和4年度提案事業（令和5年～7年度実施予定事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
3	障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業	市民提案型	NPO 法人大和市腎友会／指導室、福祉総務課	9
4	家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業	市民提案型	NPO 法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア／すくすく子育て課	12

◆令和3年度提案事業（令和4年～6年度実施予定事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
5	ふれあいの森ドッグラン運営管理	市民提案型	結の会／みどり公園課	15
6	地域で支え合う「のりあい」を走らせよう	市民提案型	地域と市との協働「のりあい」／まちづくり総務課	18
7	生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つま読み書きの部屋」	市民提案型	NPO 法人かながわ難民定住援助協会／国際・市民共生課	22
8	地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業	市民提案型	渋谷きんりん未来の会／図書・学び交流課	25
9	移動制約者の外出介助サービス事業	市民提案型	NPO 法人ワーカーズ・コレクティブケアびーくる／障がい福祉課	29
10	移動制約者の外出介助サービス事業	市民提案型	NPO 法人大和市腎友会／障がい福祉課	33
11	移動制約者の外出介助サービス事業	市民提案型	NPO 法人たんぽぽ／障がい福祉課	36
12	みんなでつくろう安心のまち事業	行政提案型	大和女性防犯会／市民生活あんぜん課	39

Ⅰ. 地域をチームに！スポーツを活用した持続可能な

地域コミュニティづくり

事業名称	地域をチームに！スポーツを活用した持続可能な地域コミュニティづくり	
事業者	NPO法人やまとスポーツマネジメント	
市担当課	旧：生活あんしん課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	1年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 0円 市担当課の執行額（注2）： 0円	
事業の目的	地域コミュニティ活動の中心的存在である自治会の運営に様々な課題が生じており、中でも自治会業務の負担もひとつの課題となっている。市民活動団体が自治会活動を支援し、自治会業務の負担軽減と、自治会加入の魅力向上を図る。	
事業の内容	<自治会業務の負担軽減> ・役員連絡用のグループLINE導入支援 ・会計アプリ導入支援 ・定例会オンライン会議導入支援 <自治会加入の魅力向上> ・「買い取りフェア」の実施 ・オリンピックによる「かけっこ教室」の実施	
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	R6.4.1	千本桜自治会定例会にNPO法人やまとスポーツマネジメント（以下、YSM）須賀が参加
	R6.4.28	千本桜自治会臨時役員会にYSM 須賀が参加 ・協働事業実施内容について協議
	R6.5.6	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加 ・グループLINE導入支援 ・会計アプリ導入支援
	R6.6.3	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加
	R6.6.20	「買い取りフェア」について打ち合わせ（オンライン）
	R6.7.1	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加
	R6.8.5	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加
	R6.8.24	「買い取りフェア」実施
	R6.9.2	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加
	R6.9.28	千本桜自治会かけっこ教室
	R6.10.7	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加
	R6.11.4	千本桜自治会定例会にYSM 須賀が参加
	R6.11.25	オンライン会議（Zoom）接続テスト

R6.12.2	千本桜自治会定例会に YSM 須賀が参加
R7.1.6	・オンライン会議（Zoom）実施
R7.2.3	千本桜自治会定例会に YSM 須賀が参加
R7.2.8	渋谷西ブロック定例会に YSM 須賀が参加
	・R7 年度以降の取り組みについて協議
R7.3.3	千本桜自治会定例会に YSM 須賀が参加
R7.3.8	渋谷西ブロック定例会に YSM 須賀が参加
	・R7 年度以降の取り組みについて協議
	※上記全てに生活あんしん課職員も同席

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課
(採点) 5 (4)・3・2・1	(採点) (5)・4・3・2・1
(コメント) 年度当初に定めた目的は達成することができた。 【役員連絡用のグループ LINE 導入】 5 月 6 日にグループ LINE を開設。開設当初はなかなか利用がなかったが、徐々に利用頻度が増え、年度末時点では、役員連絡ツールとして不可欠な位置付けにもなっている。様々な役員間での情報共有が、写真なども使用しながらリアルタイムで図られるようになっている。 参考 グループ LINE 投稿数 5 月 10 件、6 月 5 件、7 月 9 件、8 月 96 件、9 月 326 件、10 月 99 件、11 月 103 件、12 月 60 件、1 月 167 件、2 月 189 件、3 月 120 件 【会計アプリの導入】 これまでノート等に手書きで帳簿をつけていたが、会計アプリの使用を提案、会計担当者は当初は導入に難色を示していたが、わからないことがあれば対応・支援することを伝えて導入。スマホでも入力ができること、自治会向けのアプリのためシンプルな記録で済むこと、ID とパスワードがあれば、会計担当者以外でも会計状況がいつでも確認できることなど、会計担当者からも最終的には導入して良かった、との声があった。 【オンライン会議導入】 12 月の定例会を、オンライン会議（Zoom）で実施することを年度当初にあらかじめ設定。10 月定例会、11 月定例会で Zoom アプリのダウンロード方法や使用方法を説明したり支援し、11	(コメント) はじめての取り組みとして実施し、どのようなことができ、どのような効果があるか未知なところもあったが、終わってみて、目的は大いに達成することができたと考えている。 千本桜自治会は令和 7 年度に改選を迎えるが、毎月の定例会をオンライン会議で実施するのであれば、どこからでも参加できるので、副会長を受けても良いという 30 代の自治会員が現れたとの会長からの報告があった。 自治会には若い世代、勤労世代がなかなか入らないという声を自治会側から聞いているが、入りたくても入れない環境が現状の自治会にはあり、その現状を改善することで、若い世代、勤労世代がかかわりを持ってくれることが証明できた。 会計アプリの導入やグループ LINE の導入についても、自治会役員からは自治会業務の負担軽減につながっているとの意見があがっていると左記同様の報告をやまとスポーツマネジメントから受けており、自治会業務の負担軽減に成果が得られた。 イベントの実施についても、自治会側の業務はほとんど増加せずに、市民活動団体等の力を借りて、参加者が自治会の会員であることのメリットを感じることができたという回答も得られており、自治会加入の魅力向上につながる成果を得られた。 目的に掲げた「自治会業務の負担軽減と、自治会加入の魅力向上を図る」ことは十分に達成できた

月 25 日には接続テストを実施するなど、不安や抵抗のある役員の皆様に寄り添う形で支援を行い、スムーズなオンライン会議の実施を図ることができた。特に若い世代の役員の皆様からは好評の声が多かった。 【買い取りフェア】 自治会員を対象とした不用品の買い取りフェアを実施。避難指定場所で実施することで、避難場所を認知してもらうことも付加した。 買取件数：34 件 買取物品数：約 350 点 買取金額：91,980 円（不用品を持参した自治会員に支払った金額） 自治会手数料：7,667 円（買取金額の一部を自治会の収入として計上） 来場者からは以下のような声が寄せられた。 ・免許を返納してしまったので、大きなものを捨てられずにいた。（自宅まで引き取りにも来てくれて）とても助かった。 ・粗大ごみを出すとお金がかかる。買取金がもらえなくても引き取ってもらうだけでも助かる。 ・飛び込みで、家に買取業者からの訪問などもあるが、そのような業者は不安が大きい。自治会主催ということだったので安心して出せる。 ・自治会主催で、顔が見える人たちがここ（会場）にいるのが安心。 ・家の近くでこのようなイベントを実施してくれるのは助かる。定期的にやってほしい。 ・（買取金をもらって）こんなにもらえるの！？ ・次回はいつやるのか ・買取金の一部が自治会の収入になると書いてあったので、少しでも自治会が潤うのであればと思って参加した。 ・（通りがかった別自治会の方）わたしの自治会でもやってほしい。 【オリンピックによるかけっこ教室】 自治会加入のメリットを明確にすることを目的として、自治会員は参加費無料、非自治会員は有料（1000 円）とした。 参加申込：17 名（うち非自治会員 3 名） 参加人数：13 名（うち非自治会員 3 名） 参加した自治会員に事後アンケートを行ったところ、全員が「自治会加入のメリットになり得る」との回答があった。非自治会員 3 名は、すべて千本桜自治会エリア外からの参加であり、有料でも参加したいと思わせる取り組みであり、そのような事業に無料で参加できる自治会員としてのメリットになり得ることがわかった。 評価を「5」にしたいところだが、まだ改善できる余地は多数感じたことから「4」に留めた。	ことから、事業者の採点は「4」となっているが、担当課としては「5」の評価を行った。
--	--

・ 予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 毎月の定例会にも参加し、自治会長をはじめ、自治会役員との円滑なコミュニケーションを図り、予定通りの方法で各取り組みが実施できた。	(コメント) 自治会の意見も聞きながら、予定した方法によって円滑に事業が実施された。

・ 当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 本事業に市の予算はついていない。	(コメント) 本事業については、市として予算化はしておらず、評価できない。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) 5・4・③・2・1
(コメント) 1年目ということもあり、自治会に寄り添う形で取り組み、自治会にメリットが最大化するように取り組んだ。協働という観点からすると、当クラブの負担が比較的多く、当クラブのメリットはあまり打ち出せなかった。少しずつ良いが、当クラブのメリットをもっと増やしていける取り組みにしていき、自治会と当クラブのバランスの均衡を図っていかないと、当クラブとしてのかかわりが持続できない可能性もある。 その一方で、かけっこ教室を小学校のグラウンドで実施できたのは、自治会のチカラであると感じた。当クラブが学校に依頼をしても使わせてもらえない。こういった自治会と当クラブのそれぞれが持つ強みをかけ合わせることで、真の協働として地域コミュニティづくりができる将来性は感じた。	(コメント) やまとスポーツマネジメントが、今回の事業の趣旨をよく理解し、かなり丁寧に自治会に寄り添いながら事業を展開してくれた。 自治会側は課題に対する認識はあるものの、その課題解決をどのように図るのが良いのか策がなく、一方で新しい取り組みや変化に対しても抵抗が強く、課題解決を図っていくことのハードルも高い。今回の取り組みでは、やまとスポーツマネジメントが毎回の定例会に参加するなど、自治会との信頼関係を構築するところから始め、無理強いをすることなく、丁寧な取り組みを通して改革を実行してくれた。 協働という視点から見ると、自治会とやまとスポーツマネジメントの関与のバランスが、やまとスポーツマネジメント側に寄ってしまっていた感が否めず、両者の立場からする相乗効果としては、「3」を評価とした。ただし自治会側から見れば、協働による成果は「5」と判断できる。

・ 今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
Zoom 導入の説明を行った際、かたくなに拒んでいた役員が1名いたが、オンライン会議実施当日、自身のスマホにアプリをダウンロードして来られた。 今回、自治会のデジタル化に関わらせてもらい、	自治会自身でこういった改革ができるのが理想だが、デジタル化には相当な抵抗感があることから、今回の協働事業のような市民活動団体などが自治会の運営に関与することは有用であることが実証された。

自治会の皆様がデジタル化を「やりたくない」のではなく、どうすればよいのか「わからない」ということが分かった。すべてにおいて、成功体験を得ることで抵抗感がなくなり、能動的に取り組んでみようという意欲が湧いてくる様子を垣間見た。 自治会定例会の資料について、もっとシンプルに作成したり管理したりできると感じたが、今回はそこまで踏み込めなかった。自治会の事務局として関わらせてもらえば、資料の作成やデータベースの作成など、もっと業務の効率化等を図り、自治会業務の負担軽減ができると感じている。 また会計担当者に年度末の定例会で話を聞いたところ、アプリで決算書をボタンひとつで作成できるのだが、従来の総会で使用している決算書フォーマット（Excel）での報告を求められ、アプリで簡単に作成した決算書から、Excel に打ち直している、ということだった。 これまでの取り組みや、限られた知識の中での判断が、すべて正解になってしまうような風潮があるように感じた。高齢者が昨今のデジタル技術についてこられないことはやむを得ないが、すべてを拒むのではなく、柔軟に改善に取り組んでいく姿勢をもってもらうことが、自治会業務の負担軽減には必要であると感じた。 当クラブのメリットを増大させることも加味できると、関わりに持続性が持たせられる。そのためには、1 自治会の範囲で実施するよりも、もう少し広範囲な複数自治会での取り組みに拡大できると良いと考えている。	左記コメントのとおり、自治会側には大きなメリットがある取り組みとなったが、やまとスポーツマネジメント側のメリットがあまりなかったと感じる。今後、市民活動団体と自治会とをマッチングし、自治会業務の負担軽減を図るためには、市民活動団体側のメリットを構築していく必要がある。
---	---

2. 大和市民活動センターの管理運営

事業名称	大和市民活動センターの管理運営		
事業者	拠点やまと		
市担当課	つながり推進課		
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型		
協働事業 経過年数	20 年（令和6年度を含む）		
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 1,672,549 円 市担当課の執行額（注2）： 7,234,000 円		
事業の目的	活動団体の居場所としての市民活動ブース「部室」や市民交流スペースを活用して、活動の支援や様々な市民の交流を推し進める。		
事業の内容	1. 市民活動に関する支援として情報の収集と提供を行う。 2. 市民活動センターに集う人や団体の交流を図る。 3. 中高生やシニア世代などのボランティア活動コーディネート。 4. 市民活動団体と行政の協働の為、市民目線のアドバイスを行う。 5. 市民活動ブース「部室」を含むセンターの管理運営を行う。		
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)	
	通年	管理受付業務 市民活動センター 市民活動ブース「部室」 会議室 市民活動支援 相談・送受信・電子掲示・動画案内 活動維持業務 ホームページ 金銭出納帳・収支チェック・業務日誌	
	隔週	FM やまと」～やまとっこ☆みつけた～	
	毎月	広報紙「あの手この手」 ニュースレター（メール発信） 活用状況報告・拠点やまと会議・スタッフ会議	
	イベント	イベント ベテルギウスまつり「カッコーフェスタ」 中高生ボランティア活動 「このゆびとまれっ！」	
		<<指数表示>>	【前年度】
		・登録団体数	170 団体 (142)
		・会議室使用度数	1,100 回 (1,084)
		・会議室利用人数	7,200 回 (6,812)
		・部室活用回数	1,400 回 (1,288)
		・市民交流スペース概数（参考）	20,000 人 (14,388)

(注1): 事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2): 市担当課の執行額＝市負担金＋その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) “小回りの利く市民活動センター”をモットーに各自責任を以って業務を行った。 各イベントや計画行事を 全員チームワークで遂行できた。今年度は設立 20 周年、当初から比べると 量的にも質的にも倍増してきた内容を効率良く消化してきたことが分かる。	(コメント) 活動団体の居場所としての市民活動ブース「部室」や市民交流スペースを活用し、各種イベントなど計画的に実行していました。 指数表示にも表れていますが、前年比より大幅アップの数値が得られています。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 従来から基本的に“外注をしない”“スキルを向上させ自分達でやる”を行っている。 出費を削ると共に スキルの向上も図った。コロナ禍で経験した リモート業務 ZOOM 交信やハイブリッド会議など 役立つものは引き続きいで業務に取り入れる様になった。	(コメント) 事業者内スタッフの関わりもある中で、コロナ禍で培った経験を活かし、自分達による計画的な運営が予定通り実施されていました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 現在もボランティア精神を以って業務は行っているが、長年の(拠点運営委員会員 20 名弱中心) 完全無償インカインド制は止め、給与に含めた手当に切り替えている。 結果、人件費が大きく膨らみ 管理費・事業費を圧迫している。(全体としては寄付・支援金援助も加味しなくてはならない状態となる) 一方、プログラム化による仕事の効率化は引き続き弾力的に行われている。	(コメント) 管理費の増、および賃金の上昇がある中で、事業の調整・シフト見直し等により効率的に業務遂行出来ていました。 予算の中では、センター管理運営することが出来ています。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 協働として 双方の特徴、利点活用を意識して業務遂行をしている。 当初の協働 “企画会議” “セミナー企画” “システム導入” “センター運営・企業報告” 等 方針に向かったの“相互持ち寄り”は無くなり、ワークロード解消、勤務シフト調整など実務面での協働作業に移ってきている。	(コメント) 事業者と市担当課による綿密な打ち合わせを数重ねることによって、協働による事業運営が可能となっていました。 基本協定による役割分担が明確になっており、協働による相乗効果は充分にあります。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
業務モラルを保ちながら 新型コロナ禍を乗り越えてきたが、実態面からみると ・スタッフ人数が少ない ・新人が多い ・高齢化 ・在宅業務移行 などに直面しており、勤務体制については“半日ベース”の複雑なシフト体制を組んでいる状況。 他センターには無い 市民活動ブース「部室」はじめ、事務作業の多い業務等については当初から意識してシステム化を進めてきた。 設立当時から“常勤者の居ない”アルバイト形式時間給の体制を続けているが、これまでの経験を生かしながら次期継続体制について考える必要がある。 設立以来 大和市人口にも達する来館者や多くの方々との接触を通して成長してきた“中間支援センター”の自負を以って運営をして行きたい。	業務経験のあるスタッフを増員してセンターの管理運営は出来ていますが、スタッフの高齢化や団体のリーダーとなる人材育成が課題となっています。 今後は、次期協働事業の継続体制を睨みながらのセンター管理運営を「協働」（横のつながり）を意識し実施してまいります。

3. 障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた 共助・共生社会の実現を目指す事業

事業名称	障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた 共助・共生社会の実現を目指す事業	
事業者	NPO 法人 大和市腎友会	
市担当課	指導室、福祉総務課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	14 年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 18,300 円 市担当課の執行額（注2）： 0 円	
事業の目的	① 小中学生という若い日に、障がい者が日頃感じていることや生き方を知り、自分の健康や生き方、災害時の共助を考えてもらう。 ② 地域の防災訓練では、参加者に障がい者への災害時の共助と共生を考えてもらうため。	
事業の内容	① 透析者が、透析による身体的、経済的、精神的苦しさや、健康がいかに大事か、災害時自力での避難に不安をもっていることを、小中学生に知ってもらいたい、弱者への気遣いのお願いと共助を考えてもらう ② 透析者が、地域防災訓練に参加し、参加者に身近な障がい者の存在を知り、共助と共生の在り方を考えてもらう	
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
		(1) 中央林間小学校 4 年 5 クラスとのふれあい体験 ・ 講師への依頼と日程確認 ・ 小学校に開催日の相談と決定 ・ 小学校に訪問し、実施内容について説明 ・ 小学校に講師名・ボランティア等の報告及び進め方と時間の確認 ・ 事前学習として、中外製薬の「透析を受けられる患者さん」の小冊子を持参する ◆ 11時35分～12時20分で実施する 講師3名・ボランティア3名で対応 (2) 鶴間中学校 2 年 4 クラスとのふれあい体験 ・ 事前確認等は、上記の中央林間小学校と同じ内容を対応する ◆ 11時45分～12時30分で実施する 講師1名・ボランティア2名で対応 ※地域防災訓練はこれまで下鶴間連合自主防災訓練に参加していましたが、参加可能な透析会員がいないため、参加を見送りました

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 透析者自身の講話を子ども達は真剣に聞いてくれました。 1度だけの授業ではありますが、 若い時期に障がい者(透析者)と触れ合うことで ①障がい者(透析者)への理解 ②健康の大切さ ③障がい者との共生の大切さ について学ぶ大きな体験になったと考えています。	(コメント) 課名:指導室 透析者の方による実体験や実生活、その中で の不安や苦しさを直接お聞きすることで、小中学生は、自分の身に置き換えて考 えるとともに、命の尊さに気づき、これか らの生活や自分達がこれからなにをできる かなど、深く考えるきっかけとなった。 (採点) 5・4・③・2・1 (コメント) 課名:福祉総務課 避難行動要支援者支援制度の主管課として 本事業に対する情報提供等の対応は可能だ が、今年度実施した事業の中での関わりは なかった。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 講話者とは授業の目的だけ共有し、発表の仕方は 任せていましたが、当事者でなければ話せない 体験談を語ってもらうことで、子どもたちは 心動かされた様子でした。 ただ、講師依頼(=透析者)及び学校との日程 調整は少し苦劳しました。	(コメント) 課名:指導室 講話者の方のご体調もある中で、複数名直 接学校に行っていたいただき、パワーポイント 等を活用したお話や体験談などを語り、ふ れ合っていただく機会をいただけることは、 貴重な機会になっている。小学校4年 生では、福祉の学習をしたばかりの状態であ ったので、子どもの心に響いていました。 学校との連絡もしっかりと、とっていただ けた。 (採点) 5・4・③・2・1 (コメント) 課名:福祉総務課 避難行動要支援者支援制度の主管課として 本事業に対する情報提供等の対応は可能だ が、今年度実施した事業の中での関わりは なかった。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
（採点） ⑤・４・３・２・１	（採点） ⑤・４・３・２・１
（コメント） 当初の計画の範囲で実施できました。	（コメント） 課名：指導室 中央林間小学校と鶴間中学校の実施予定校において、スケジュールどおりに実施できた。予算は、特にありません。
	（採点） ５・４・③・２・１
	（コメント） 課名：福祉総務課 予算は、ありません。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
（採点） ⑤・４・３・２・１	（採点） ⑤・４・３・２・１
（コメント） １０年以上前から行っている事業ですが、協働事業であるからこそ小中学校の貴重な授業時間を頂いて実施出来ています。学校側は毎年準備等にもご協力いただき、大変感謝しています。	（コメント） 課名：指導室 障がいのある人となない人が具体的に接し関わりあう中で、全ての人の尊厳が守られる共生社会の観点から、児童・生徒にとって、大変有意義な機会であったと思います。講話者（透析者）と直接お会いして、実体験などのお話をしていただける貴重な機会は、可能である限りは、今後も必要である。
	（採点） ５・４・③・２・１
	（コメント） 課名：福祉総務課 避難行動要支援者支援制度の主管課として本事業に対する情報提供等の対応は可能だが、今年度実施した事業の中での関わりはなかった。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
透析患者の会を取り巻く環境は大きく変容してきています。 （会員の高齢化、新会員減等） このような状況下で今後の患者会活動をどうすべきか議論しています。	課名：指導室 改善事項は、特にありませんが、透析患者の会を取り巻く環境は大きく変容していると聞いています。来年度は継続予定ですが、会員の高齢化、新会員減等の理由で、次回の更新はしない旨の連絡を受けています。
	課名：福祉総務課 本事業に対する情報提供等のあり方について見直しが必要だと感じるが、透析患者の会が抱える課題については認識しており、今後の活動については会の意向に沿って対応したい。

4. 家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業

事業名称	家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業	
事業者	NPO 法人ワークス・コレティブ チャイルドケア	
市担当課	こども部すくすく子育て課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	5 年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 994,340円 市担当課の執行額（注2）： 200,000円	
事業の目的	家庭訪問型支援活動を推進し、子育て中の親の負担軽減、親子の精神的安定を図る。	
事業の内容	6歳未満の子どもがいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が、週に1回2時間程度訪問し、傾聴や親と一緒に子育てや外出をする子育て支援ボランティア活動。 市等が実施する様々な子育て支援施策が上手に利用できない、支援が届いていない、支援の隙間で誰かの手助けを必要としている「気になる家庭（虐待やトラブル等が発生していないが、ストレスの高い孤立家庭）」に支援を行う活動。	
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	R6.4.1～ R7.3.31	訪問ビジター数：27名 訪問オーガナイザー数：3名 利用申し込み件数：48件 実際に利用した件数：62件 （うち双子のいる家庭2件） 訪問回数延べ：403回 ●南関東エリアホームスタート協議会研修&交流会 令和6年6月29日 13時00分～16時30分 令和6年6月30日 9時30分～12時00分 参加7スキーム（神奈川県・静岡県・山梨県・長野県） ・大和市すくすく子育て課 ・講話聴講 渡辺久子氏 ・グループ討議 幹事：ホームスタートやまと ●大和市管理栄養士による離乳食研修 令和6年7月16日 10時00分～11時30分 参加者8名

		●HV 養成講座 令和 6 年 10 月 7 日～令和 6 年 11 月 20 日 9 時 30～16 時 30 分 参加者 8 名 HV 登録者 8 名 ●南関東エリアホームスタート協議会ビジターデイ 令和 7 年 2 月 11 日 参加 8 スキーム（神奈川県・静岡県・山梨県・長野県） ※長野県はオンラインにて参加
--	--	--

(注 1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注 2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和 6 年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 利用者から「使ってよかった」、「もっと前から使えば良かった」、「保健師に勧められたのに躊躇してしまった」などいろいろな感想があった。使った方は「もっと使いたい」、「2 クール目も考えている」様子も聞けた。また、「実家からの手助けを得るきっかけになった」という話もあった。	(コメント) 核家族化、地域の希薄化による中で、ボランティアが訪問することにより、子育て家庭の孤立感を緩和することに役立っている。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 利用者も訪問者も体調で予定が変わってしまうことが多かった。特に利用者は家族で罹患すると空白期間が長引いてしまう。また夏の暑さをどのように乗り越えるか、工夫が必要であることを訪問者も日々考えていた。月 1 回の交流会では工夫についての意見や知っていることを共有し、利用者と一緒に考えたりしていた。	(コメント) オンライン対応やマスク着用・アルコールの徹底など、感染対策を工夫したが、利用者、訪問者双方で感染者が出てしまうと、予定を延期せざるを得ないこともあった。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
（採点） ⑤・４・３・２・１	（採点） ⑤・４・３・２・１
（コメント） 養成講座の内容も充実し、特に家庭こども相談係から担当が講師として参加することで、訪問活動の意義と立ち位置が明確になった。市の保健師による講座も講義の後、訪問するボランティアには分かりやすく、現場に向かう力になった。	（コメント） 協議会研修に市の担当者が参加したことにより、市は、子育て家庭における悩みや課題など現場の声を聞き取ることができた。また訪問ビジターは、自身の活動を振り返り、訪問の成果や貢献度を実感することができたのではないかな。 市の当初予算 200,000 円で実施できている。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
（採点） ⑤・４・３・２・１	（採点） ⑤・４・３・２・１
（コメント） 訪問型子育て支援は、利用者の自発的な連絡で動き出すが、先に全戸訪問という大和市の支援があることで、より細やかな孤立家庭や何となく誰かがそばにいた方が良いような家庭とつながることもできた。 利用者は「保健師さんから」、「健診で」と市との関りを理由に挙げる人が多かった。 また、管理栄養士、保健師といった専門職とのやり取りの中で、訪問するビジターも意識を高めていくことができた。	（コメント） 同課内で行っている市の健診や保健師訪問をする際に、活動の紹介を行った。また、育児相談などの行政による支援につながった事例があった。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
利用者が「自分が使ってもいいのだろうか」というのではなく、もっと身近に「使ってみよう」と思ってもらえるような広報を考える。 支援するボランティアの獲得。	市民への周知と利用者の増。

5. ふれあいの森ドッグラン運営管理

事業名称	ふれあいの森ドッグラン運営管理	
事業者	結の会	
市担当課	みどり公園課	
提案分類	市民提案型	・ 行政提案型
協働事業 経過年数	18 年（令和 6 年度を含む）	
令和 6 年度 決算予定	事業者の負担額（注 1）： 150,000 円 市担当課の執行額（注 2）： 1,072,660 円	
事業の目的	犬のしつけとマナーの向上及び、犬と人との触れ合いを通して 会員相互の親睦を図り、ドッグランの運営を介して地域社会に 貢献すること。	
事業の内容	会員登録説明会の企画運営（グリーンアップセンターにて3か月毎） 毎月第3日曜日に犬同伴の公園清掃（夏季7・8月を除く。今期は9月も猛 暑のため中止とした） ドッグランの運営及びイベント企画	
令和 6 年度事 業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	2024.06.01(土) 2024.09.08(日) 2024.12.07(土) 2025.03.02(日)	会員登録説明会（於；グリーンアップセンター研修 室・コミュニティセンター集会室） 第 63 回 26 組+39 名+10 名（参加者 + 役員） 第 64 回 26 組+42 名+11 名（参加者 + 役員） 第 65 回 15 組+21 名+11 名（参加者 + 役員） 第 66 回 19 組+29 名+11 名（参加者 + 役員）
令和 6 年度事 業実施の経過	2024.06.16(日)	定期清掃 56 名 終了後、場内整備及び役員会
	2024.7 月～9 月	夏季定期清掃中止
	2024.10.20(日)	定期清掃 雨天中止
	2024.11.17(日)	ドッグランイベント 60 名参加
	2024.12.15(日)	定期清掃 48 名 終了後、場内整備及び役員会
	2025.01.19(日)	定期清掃 52 名 終了後、場内整備及び役員会
	2025.02.16(日)	定期清掃 52 名
	2025.03.16(日)	定期清掃 雨天中止

（注 1）：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

（注 2）：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 役員だけでなく運営委員を充実させることで、行事や会場整備を円滑に行えたと思います。 会員数の増加に伴い、ルールやマナー問題はまだまだ改善の余地ありますが、協力的な会員が増え、行事にも積極的に参加してくれています。 また森林エリアの完成と駐車場の整備により、会員の利便性の向上も図れたと思います。	(コメント) 定期清掃や場内整備への参加者が増加傾向になり、行事等を通して会員同士の親睦を深められました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 定期清掃、夏場の草刈り等の行事は、多数の会員の協力のもと実施できました。 草刈りについては、今期も日時や時間帯等、会員の意見を多数取り入れ実施できたと思います。 ここ数年コロナ禍で実施できなかった11月のイベントも多数の会員の参加があり、無事に開催できました。	(コメント) 会場の予約や会員登録説明会を予定どおり実施できました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 故障して使えなかった草刈り機と刈り払い機を新調し、夏場の草刈り3エリアを効率的に作業することができました。 必要な経費や施設の維持費は予算の中からの支出ですが、今期も草刈りや定期清掃時の飲料水、軍手やゴミ袋等、会員からの寄付があり助かっています。	(コメント) 予算の範囲内で、事業が実施できました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・４・３・２・１	(採点) ⑤・４・３・２・１
(コメント) 今期は放置自動車問題や施錠問題等がありましたが、市役所との連携が密に取れたことで、会員への情報共有が素早くできました。 また、会長が市役所訪問の際、市役所担当者と定期的に話し合いが行えており、スムーズな運営に繋がっていると思います。 市役所は全体管理、結の会は実務と、担当部分がはっきりしているので、連携が取り易く動き易いと思います。	(コメント) 市と結の会で役割が明確となっているので、スムーズに事業が実施できました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
今期は念願だった森林エリアが完成し、駐車場も広く使える様に整備しました。 エリアの充実で使いやすくなった反面、新規会員が増えると、どうしても独自のマナーやルールが横行するので、次期は誓約書の内容見直しや利用規約の項目精査等、会員の意識向上を目的に改良を進めていきたいと思っています。 今後も会員制の市民ドッグランとして、会員全員がより一層マナーの向上に努め、人にとっても犬にとっても心地よいドッグランにしていきたいと思っています。	ドッグランの運営や利用に関して、今後も結の会と意見交換をし、可能な限り適宜対応を図っていきます。

6. 地域で支え合う「のりあい」を走らせよう

事業名称	地域で支え合う「のりあい」を走らせよう
事業者	地域と市との協働「のりあい」
市担当課	まちづくり総務課
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型
協働事業 経過年数	15年（令和6年度を含む）
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 381,000円 市担当課の執行額（注2）：42,398,568円
事業の目的	地域生活交通の利便性向上のため、移動手段「のりあい」を創出し、運営することによって、地域住民の日常外出機会を増やし、地域の良好なコミュニケーションを育み、住み心地良い地域づくりを目指すとする。
事業の内容	・ 地域で支え合う移動手段に向けた取り組みを運営（協働事業協定書） ・ 高齢利用者への福祉対応、運行地域の防犯、交通安全への取り組みを通し、地域住民の交流を深める（具体的事業は、会則の附則による）
令和6年度 事業実施の経過	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください） ■「のりあい」は、日々毎日が生活交通の事業運営、実施でありますので、活動実施項目ごとに年間の事業実績をまとめて報告します。
	1. 「のりあい」地域交通の運行実績（概数） ① 運行事業：大和市、相鉄バス株、地域協働事業団体の三者による乗合交通の運行（定時、定路線の運行） ② 運行日数：365日（毎平日20便数、毎休日12便数） ③ 利用者数：34,560人（令和6年度概数、5年度比3630増） 月平均2880人、一日平均95人の利用状況 ④ 利用内容：高齢者、身体的弱者で85%、若年者、通勤者15% 2. 添乗支援活動 ① 有償ボランティア8名で活動支援実施 ② 平日20便数の内、3便～6便数に1人～2人乗車して、主に高齢者の乗降時、車内での着席等安全補助の支援活動 ③ 年間添乗便数：1365便数（平日運行便4500便数の30%） ④ 年間添乗延べ人数：370人・一人平均190便数・月14便数 ⑤ 相鉄バス運転手との良好な対話を図り、共に「のりあい」を更に身近な交通として向上させる。 3. バス停留所を起点とした運行路上、周辺地域のクリーン活動 ① 毎月スタッフ全員で全停留所、路上、公園等を1時間実施 ② クリーン活動参加者延べ104人 ③ クリーン活動を通して、地域住民との「ふれあい」を深めている。

	4. 地域コミュニティ活性化、「のりあい」利用促進 ①地域交流会の実施（毎年実施） ・利用者、市長他来賓者、自治会役員、事務局との懇談、のりあいの現況報告、交流を目的に、6月15日開催78人参加 ②のりあいニュースの発行 ・毎月1日付で地域10自治会員へ配布（4100世帯対象） ・運行の状況、利用案内、留意事項、運行時刻表等を掲載して利用促進と、「のりあい」交通の利便性向上を図っている。 ③大和市主催の交通イベントに交通事業者の一員として参加 ・地域の公共交通（路線バス、コミュニティバス、のりあい）の再確認および利用促進を目的に実施 ・10月14日、市役所駐車場で実施し多くの市民が参加 ④大和市令和6年度協働事業パネル展に出展 ・令和7年2月、3月実施のパネル展に出展（市民への広報） 5. まちづくり総務課と日々の事業活動の検討、協議確認を実施 ①毎月および適時、「のりあい」の運行状況、地域状況、課題等を相互に確認し、協働事業達成に向け、検討、協議を実施している ②特に、「のりあい」課題解決に向け、緊密な連携で適時、事務局とで協議を実施して解決策の方向を共有し確認している。 ③交通事業である相鉄バス担当者を含めた三者連絡会を適時実施して、運行の現況を確認し、課題、対策を協議している。 ④のりあいニュース発行を、のりあい事務局と市担当とで作成し、「のりあい」協働運行の近況を広報している。 6. 「のりあい」組織の議決、進め方、確認 ①のりあい役員会（のりあい推進事項の協議、最終承認） ・3月22日土）開催、7年度の事業計画、予算等承認 ・自治会長10人、スタッフ9人参加で運営 ②担当者会議（毎月の運行状況共有、確認） ・年間12回開催（毎月第4日曜日）参加延べ108人 ③会計監査 ・年度の会計（収支）について、2名の監査人により監査実施 ・4月10日 実施、関係者5人参加 ④地域10自治会との連携と相互協力 ・協働事業運営は、地域自治会の協力、支援が原動力ともなり、10自治会から一定額の協力支援金を受け活動実施している。 ・「のりあい」の中間決算状況、年度事業活動報告等を適時、資料として自治会長に配布し、理解と協力、確認を得ている。 ・停留所新設について、地域自治会より要望を受け、協議し相互協力を基に、10月1日新規開設し、地域住民から感謝の言葉をいただいている。（自治会も「のりあい」に新規参加を実施） ⑤外部有益団体との連携 ・NPO かながわ福祉移動サービスネットワーク、NPO 全国移動サービスネットワークとの有意義情報交換、協力連携実施。
--	--

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 ― 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ・地域生活交通の利便性向上に毎日定時運行を相鉄バスの協力を得て、継続実施していることに利用者から、感謝と信頼を得ています。 ・高齢者等利用者さんから「のりあい」利用で外出の機会が多くなり、友達も増え、また生活環境もよくなり元気をもらえたと運行の継続を強く要望されている現況です。 ・のりあいニュース等で、日常の運営、運行について地域、利用者が理解されていることが「のりあい」運行の信頼に繋がっています。	(コメント) ・令和5年度後半からの運行本数の増加により交通利便性が高まり、令和6年度中の利用者数は過去最高を超える見込みで推移しております。 ・参加自治会の増加に伴いバス停を増設し、西鶴間地域の住民の外出がさらに活発になりました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ・事業活動計画に沿った実施により、実施不足事項、課題、反省事項を探り、協議し、改善していく取り組みで、予定(計画)通り実施しています。	(コメント) ・問題点や課題が出た場合も、協働事業者と協議し、運行事業者にご協力いただくことで、予定通りに進めることができました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) ・のりあい団体の予算は、地域自治会からの協力支援金、市の負担金で予算計画し、個別の具体的活動実施は、当然ながら予算計画内で執行しています。 ・予算計画内での実施は、無理をしない、できる範囲内で取り組むことを基本にしています。	(コメント) ・バス停の増設に伴い、車内アナウンスの変更が必要になりましたが、予算枠内で事業を実施することができました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・４・３・２・１	(採点) ⑤・４・３・２・１
(コメント) ・毎日が「のりあい」運行実施であります。三者での運行事業でありますので、大和市（行政）、相鉄バス（交通事業者）、のりあい団体（地域）夫々の役割を明確化して、効果ある交通（運行）を目指し取り組んでいます。 ・交通事業者である相鉄バス運転士の皆さんが、「のりあい」と、運行地域を理解され、また利用者に親切な対応をされて毎日の運行が良好な現況です。 ・地域利用者への交通サービスとしては、他に類を見ない地域乗合公共交通と思います。	(コメント) ・地域の意見集約やバス停清掃、添乗者の監督を協働事業者が行い、バスの運行は交通事業者が適切に運行し、バス停設置手続きや委託の管理を市が行うことで、スムーズな運営ができていますと考えております。 ・また、協働事業者と活発な意見交換をすることで、意識の共有を行うことができています。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
・現状、一部地域、停留所、運行時間帯での「乗り残し」状態が、数年継続発生しています。（６年度乗り残し概数として４６８人予測） ・対策として、運行車両の大型化、増便等検討していますが、事業経費との兼ね合いもあり、今後とも三者で継続検討、協議していく方向性を確認しています。 ・「のりあい」組織スタッフの高齢化、減少化が顕著であります。地域内での対策検討中ですが、有償ボランティアとしての位置づけ、経費対策等課題もあります。 ・「のりあい」の福祉的要素（高齢者等利用者の外出、乗車支援等）について、他の移動制約者の外出サービス事業と区別し、支援内容の充実、公的支援等の検討を要すると考えます。	・地域住民の高齢化や移動需要の高まりを要因として、乗り残しとなった人数が増加し続けています。 ・一方向運行であることから、ルートの後半の地域で乗り残しが継続して発生していることが課題と捉えています。 ・乗り残し解消に向けた対策について、協働事業者、運行事業者とともに検討を重ねてまいります。

7. 生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」

事業名称	生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」	
事業者	NPO 法人 かながわ難民定住援助協会	
市担当課	国際・市民共生課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	15 年（令和 6 年度を含む）	
令和 6 年度 決算予定	事業者の負担額（注 1）： 10,000 円 市担当課の執行額（注 2）： 100,000 円	
事業の目的	多文化共生社会の実現を目指して、同じ地域に住む日本人と外国人市民が相互理解を深めるとともに、外国人学習者の日本語読み書きのスキルアップと日本の生活・文化・習慣への理解を高めていく。	
事業の内容	上記の目的を達成するため次に掲げる事項を行う。 ① 日本語教室の開催 ② ボランティアスタッフの育成 ③ 成果物の作成とホームページ公開 ④ SNS を活用した教室活動の紹介	
令和 6 年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	R6/6/4	第 1 期資料検討会 スタッフ 3 名 市担当課 1 名
	R6/6/10～25	第 1 期教室（生涯学習センター） 受講生の申込がなく開講できず。
	R6/10/1	第 2 期資料検討会 スタッフ 3 名、市担当課 1 名
	R6/10/7～29	第 2 期教室（生涯学習センター） 受講生 1 名 スタッフ 3 名 受講生の申込が 10 月 29 日のみで、29 日のみ開講
	R7/2/25	第 3 期資料検討会 スタッフ 3 名、市担当課 1 名
	R6/3/3～ 3/18	第 3 期教室（生涯学習センター） 受講生 9 名 スタッフ 3 名

（注 1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注 2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和 6 年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 第1期講座は申込がなく、開催できなかった。 第2期講座も申込が29日のみ1名だった。 夜クラスの申込が少なく、開講できたのは1回だけだった。 継続して受講している学習者がなく、新規申込者だけであった。 継続して受講する学習者がいなかったのは、日本語ができるようになる、仕事に就いて教室に参加しなくなってしまうのではないかと考えられる。	(コメント) 第1期、第2期に関しては受講生が集まらず講座を十分に開催することが出来なかったが、3期に関しては新規の方を中心に9名の学習者に参加をしていただいた。そのため、日本人と外国人市民が相互理解を深めるとともに、日本語読み書きのスキルアップと日本の生活・文化・習慣への理解を高めるという目的が達成できたと考える。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・4・3・ <u>2</u> ・1
(コメント) 予定通り開催できた講座できなかった講座があった。 ボランティア研修講座は、日本語教室に参加する学習者が少なく、新たにボランティアを集めるのは適当でないと考え、実施しなかった。	(コメント) 参加者が集まらず予定通りに開催できなかった講座があった。今後は参加者を集めるため、周知方法を検討する必要がある。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) <u>5</u> ・4・3・2・1	(採点) <u>5</u> ・4・3・2・1
(コメント) 講座は予算内で実施できた。	(コメント) 事業は予算内で実施できた。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 講座会場の確保や使用する機材の手配、受講者募集などを担っていただき、教室の運営に集中できた。	(コメント) 事業者と密に連絡を取り合い、講座の円滑な運営を行うことが出来たが、本年度においては受講者が集まらず講座を十分に開催することが出来なかった。来年度においては周知により力を入れることで協働の効果を高めていきたい。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
つま読み書きの部屋の講座のお知らせを「広報やまと」や国際化協会が発信していただいているが、申込者が多くないので、日本語の読み書きの能力を必要とする外国人市民につつま読み書きの部屋の存在をどのように届けるか検討したい。 英語でのお知らせを作成、メールやファックスでの申込を英語でもできるようにしたが、効果の有無はもう暫く検討したい。 QRコードでの申込ができるように努力する。 日本人スタッフの減少や高齢化は進んでいるが、国際化協会での日本語ボランティア教師養成講座を受講した方々や 2023 年度につつま読み書きの部屋で開催したボランティア講座に参加した方々が見学に来てくれるので、スタッフとした教室運営に関わっていただけるように努力する。	現在広報やまとや市ホームページ、市公式LINE、また国際化協会経由でつま読み書きの部屋の講座のお知らせを発信しているが、当教室を必要としている外国人市民に情報が届いていないというのが現状である。 日本人スタッフの減少や高齢化は進んでいるものの、昨年開催をしたボランティア講座の受講者や、国際化協会のボランティア教師養成講座の受講者が見学に来ている。その方々がスタッフとして教室運営に関わっていただけるよう支援を行っていくと同時に、当教室を必要としている外国人市民へどのように情報を届けるのか検討する必要がある。

8. 地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業

事業名称	地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業	
事業者	渋谷きんりん未来の会	
市担当課	図書・学び交流課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	21年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 38,396 円 市担当課の執行額（注2）： 6,201,484 円	
事業の目的	新しい公共の創造に寄与することを基本とし、地域住民の生涯学習を推進し、交流できる居場所として渋谷中学校との連携のもと、活力ある住みよい地域となることを目的とする	
事業の内容	1) 会議室、特別教室の市民への貸し出しなどを通じた市民活動の活性化事業 2) 地域ニーズに基づいた生涯学習の推進支援事業 ・地域住民の生涯学習の推進、交流の場となる活動の支援 3) 下和田地区の児童館機能、子どもや保育者・中高生・一般などの居場所としての事業 ・地域の人々の憩いの場、学びの場として日々充実した活動ができる場を提供 ・閉校した下和田小学校の思い出を伝え、交流できる場の提供 4) 伝統文化・国際交流・環境配慮等に関するイベントの企画等 ①日本の伝統文化を伝えるため、地域の方の協力のもとに事業を実施 ②地域に生きる外国籍の方々との協力を基本として活動を推進 ③地域の方との協力や学校との連携の中で環境美化やリサイクル工作、グリーンカーテン作りなどを実施 5) 情報発信事業 ・ホームページや地域回覧用の広報誌や小学生向けのお知らせなどを作成し情報発信 ・いちよう団地への下和田の郷通信翻訳版の配布	
	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
令和6年度 事業実施の経過		別紙のとおり

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 夏休み期間は例年にない猛暑と中学校設備工事等実施の影響もあり、子どもたちの来館が減少したが、何とか盛り返すことが出来た。 子どもたちにはいつ来てもできる簡単な工作やカレンダー作りなどの事業を工夫し多くした。	(コメント) 猛暑や中学校の設備工事等の影響により、夏休み期間中の利用者数が減少してしまったが、個人利用者数は最終的に前年度とほぼ同程度という結果になった。 団体の利用者数については会員の高齢化による会員数の減少の影響もあり、昨年度より少なくなったが、概ね目的は達成できた。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 広報「やまと」での事業案内を掲載できなくなったことで、代替案として二次元コード(事業日程)の掲載、回覧やポスター掲示、電話での対応等で補い概ね行うことが出来た。 講師の方々や担当課などにも協力していただきスムーズに事業が行えた。	(コメント) 今年度は新型コロナウイルスによる事業の中止もなく、概ねほとんどの事業を予定通り実施することができ、講座等の開催回数は昨年度より増加した。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 年度途中で最低賃金の改定があり苦慮したが、日程調整しながら、当初予定していたスケジュール通りに事業がほぼ進み、予算の範囲内で無事実施できた。	(コメント) 予算の範囲内で事業の実施ができた。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 大和市内各学習センターへの「下和田の郷」の行事案内の掲示や翻訳版の手配、会議の資料作り、その他事務用品や衛生面での消耗品支給等、担当課の協力、支援により、利用者への情報提供や施設環境作り等に大いに効果がある。 諸問題や緊急課題が発生した場合は、学校や関係機関等と連携して解決できるよう担当課の協力、助言等により解決につなげるという協働による効果が得られたこと。	(コメント) 基本的な施設運営を地域に密着した事業者が行うことにより、地域に根差した様々な事業が展開され地域交流の拠点となるとともに、事業者の求めに応じ行政が支援を行うことで、それぞれの長所を活かした効果的な施設運営がなされた。 下和田の郷が発行している「下和田の郷通信」の翻訳を手配し、中国語版とベトナム語版の発行を行うことができた。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
周辺自治会等でのイベントが盛んになってきており事業の日程などの調整が必要と感ずることもある。 広報やまと内で事業の紹介が掲載できなくなっており参加者にも各事業の開催日程が伝わりづらくなっている。広報の仕方に工夫が必要である。 地域の高齢化や天候の不順、感染症予防等の要因による登録団体の利用回数や団体内の構成人数の減少があり、それに伴い団体利用人数が減っている。 新しい利用団体が増えるよう工夫するとともに、利用の多い夜間の武道場を定着させ、昼間の会議室・和室などの利用をより充実させたい。そのためにも広報活動等の工夫を行うことが重要課題である。	広報やまとでは紙面の都合上、協働団体のホームページを紹介する二次元コードを載せる事しかできなくなり、広報力の強化が課題となっている。 コロナ禍により団体の活動が休止になった影響などにより、団体の利用者数については新型コロナウイルスが第5類に移行してからも減少傾向にある。 団体利用を活性化させるためにも、より良い広報の仕方を検討していく必要がある。

2024年度事業実施状況																			
自主事業															3月終了時				
対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容	回数	人数		
主に小学生	ディスプレイ	不定期			29日 30日	1日 7日	4日 18日			30日	1日 21日				季節にあわせた飾り付けを利用者と共に行う（七夕飾りやクリスマス飾り等）	18	105		
	アレンジフラワー	土						15日			15日				花を使って自由に表現するアレンジフラワー	2	14		
	デジタルクラフト	日	毎週日曜日												ＰＣを使った制作通じＰＣ使い方や遊び方を学ぶ（ペーパークラフトなど）	36	142		
	かんたん工作	不定期	14日 24日	4日 29日	11日 15日	10日 28日	1日 31日	8日 29日	5日 29日	3日 20日	4日 22日			15日	季節に合わせたかんたんな工作	54	180		
	カレンダー作り	不定期	6日 24日	1日 29日	1日 29日	3日 28日	28日	8日 18日	2日 13日	3日 30日	1日 10日	5日 19日	2日 26日	2日 30日	子ども達と一緒に翌月の予定表を作成し、フリースペースを飾りつける	68	321		
	かき氷	日				21日 28日	4日 18日 25日								スタッフと一緒にかき氷を作って食べる	5	61		
小中・一般	みんなで大掃除					7日					12日				スタッフと利用団体の方々と一緒に大掃除	2	25		
	スクリーンを使って	日	毎週日曜日												子どもとスタッフの協力による映画上映会	39	180		
	シェイク作り								6日 13日 20日						子どもたちと一緒にシェイクアイス作り	3	25		
一般	布わらじ作り	木・金			25日 26日										スタッフが講師となり不要になった布を再利用したわらじ作りを行う	2	18		
																229	1071		
共催事業																			
対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容	回数	人数		
	おたのしみ工作	日			30日					30日			2日		季節に合わせた材料や作品作りを通して、道具の扱い方なども学ぶ	3	32		
	書初め教室	木										6日			新年の書初めを行い落ち着きと集中力を養う	1	2		
一般	男の料理教室	日			23日		25日			10日		26日			成人男性が一人で栄養のバランスのとれた食事が作れるような料理講習会	4	33		
	押し花	火			11日					12日					利用団体の方が講師となり、参加者が一緒に押し花を通じて交流を図る場	2	18		
	ウクレレ教室	月(毎週)	4月-6月 毎週(月) 全10回												ウクレレ演奏を通じて音楽や楽器を楽しむ	10	62		
	ＰＣなんでも相談室	第3(木)	18日	23日	13日	18日	22日	19日	17日	21日	19日	23日	13日	13日	市民や利用団体のＰＣスキルの向上	12	66		
	書道教室	木										6日			写経を通じ集中力や手先の感覚を鍛える	1	6		
	さき織り体験	火			20日				29日						不要になった布を最後まで使い切るエコな教室	2	15		
	ポルトガル刺繍	木							24日						ポルトガル地方発祥の毛糸を使った刺繍、手先の運動と、参加者の交流の場	1	9		
	籐で編む工作								20日						籐を利用した作品作り	1	10		
	フラダンス教室	木(毎週)			13日										音楽にあわせて体を動かす、フラの楽しさを知ってもらう体験会	1	1		
																38	254		
支援事業																			
対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容	回数	人数		
中学生	サタデー・チャレンジルーム	土	毎週土曜日												渋谷中学校の先生が行っている生徒への学習支援	33	138		

9. 移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ ケアビーくる	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	21 年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）14,672,651円 市担当課の執行額（注2）： 177,776円	
事業の目的	ひとりでは公共の交通機関を使えない障がい児者や高齢者などの移動制約者が、外出時の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることを目的とする。	
事業の内容	福祉有償運送の位置づけ。主に車を使い、会員制、予約制で様々な要望に応じて介助付きの移動サービスを実施。通院や入退院、通所、ショートステイ、買物、墓参など。必要に応じて、ベッドtoベッド、車椅子に乗ったままの階段の乗降（複数人に対応）などにも対応。 会所有：福祉車両4台（リフト式3台、スロープ式1台）、ストレッチャー、フルリクライニング車いす、車いす（5台）、段差用スロープなど 登録セダン：13台、活動メンバー：34人（内、運転会員22人）	
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	通年 4月13日 4月16日 5月11,12日 5月19日 5月20日	利用会員（移動制約のある高齢者や障がいのある方々）に、主に車を使って介助付き移動サービスを実施しました。 昨年度からの継続利用会員：242名 今年度の新規利用会員：117名 計：359名 利用回数：6,267回 利用者延べ人数：3,917人 （通院等 3,996回、通所等 606回、その他 1,665回） 年中無休で電話番号を配置。毎日メールで予定表を確認。メール、LINEなども活用しながらメンバー間での意思疎通を図り、毎月、定例会・理事会を開催し、課題解決などを図りました。 福祉車両の定期点検・車検・修理。オールシーズンタイヤ装着。 必要に応じて講習の受講、内部研修を実施しました。（NASVA 運転管理者講習、適性診断など） 協働事業提案企画書提出 黄色いシートキャンペーン贈呈式 市民まつり（コミュニティ・オブ・タイム福祉協議会大和の一員） 第27回通常総会 ワーカーズ・コレクティブ協会 学習会（web）

5月21日	大和市協働事業報告会 参加(2名)
5月25日	かながわ移動ネット 学習会
5月31日	輸送実績報告書提出(街づくり総務課)
6月29日	協働事業提案プレゼンテーション
7月8日	日揮福祉財団報告
7月9日	新キャラ自損事故 修理(7/9. 7/15~8/3)
7月11日	日本財団福祉車両助成申請
7月19日	タウンニュース広告掲載
7月23日	車両保険更新手続き
7月31日	内閣府規制改革推進室ヒアリング 同席、視察協力
8月1~3日	てのひら号エアコンコンプレッサー交換修理
8月5日	地域公共交通協議会出席(2名)
8月6日	FMやまと出演(2名)
8月13~22日	てのひら号故障、修理
8月24日	認定運転者講習会 講師派遣
8月28日	協働事業提案 検討結果報告会
8月30日	労災保険手続き, 社会保険料手続き
8、9、10月	福祉車両4台、それぞれの6ヵ月点検
9月3日	地域公共交通協議会ワーキングチーム 出席
9月11日	社労士による学習会(労基法等)
10月3日	たすけあい型外出支援ネットワーク交流会学習会
10月9日	共同募金協力(街頭募金は自粛)
10月14日	大和市地域公共交通協議会イベント
10月15日	NASVA 運転管理者講習
10月20日	福祉有償運送リーダー勉強会(2名)
10月30日	『ケアビーくる通信 第16号』発行
11月8日	NASVA 適性診断
11月29日	消費税中間申告・納税
11月24日	認定運転者講習会 講師派遣
12月9日	日本財団申請結果通知(落選)
12月10日	ライフフリー助成中間報告
12月10日	NASVA 適性診断
12月10日	黄色いシートキャンペーン報告書等提出
12月19日	担当者会議
12月26日	福祉車両3台の駐車禁止除外指定更新手続き
1月17日	令和7年度分ライフフリー助成申請
2、3月	福祉車両4台の1年点検
2月12日	ワーカーズ・コレクティブ組織運営学習会(web)
2月12日	黄色いシートキャンペーン書類提出
2月16日	市民活動センター20周年記念交流会
2月6日	福祉有償運送制度説明会(web)
3月6日	ハイエース鍵の不具合 修理
3月6日	車いす入荷
3月14日	N-BOX オールシーズンタイヤに履き替え
3月18日	令和7年度のライフフリー助成決定の通知受領
3月25日	団体名、福祉有償の表示マグネットシート入荷
3月29日	全社協在宅福祉総合保障更新

(注1): 事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注2): 市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 移動制約者の社会参加促進を目的とするという共通認識をもったうえで、事業を遂行することができました。20年来の継続の利用がある一方、今年度も多くの新規利用の入会が続きしました。この活動が必要とされていることを実感します。今年度も多くの利用者や家族から感謝の言葉を頂きながら、また、それ以上にこちらが元気をいただきながら、活動を続けられました。	(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念が続く中、物価上昇・価格高騰も続き、大変厳しい運営環境となっています。この事業のサービスを必要とする移動制約者(高齢者・障がい者等)の方々に対し必要な対策を取り、個別の要望を聞き入れたうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 関係部署・事業者・ご家族との連絡を密に取り、きめ細やかな、利用者寄り添ったサービスが提供できたと考えます。 予てから要望していた市主催の運転者講習会が今年度8月と11月に実施されました。新たなメンバーの参加が5名(内運転会員3名)ありました。また、内規により75歳をもって3名が運転会員を卒業しました。専任で常時携われる担い手の不足は恒常化しており、このままでは本会の活動の継続が危ぶまれます。メンバーの拡充が引き続き喫緊の課題です。	(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念から、利用者が様々な不安を抱えており、それらからくる定期通院などの外出習慣を控える傾向を感じております。事業者は担い手不足等の課題がありながらも、個々の利用者の状況をきめ細かく把握し、この事業を必要とする方に対して、必要なサービスを提供し事業の実施・継続することに努めていただきました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 昨年10月1日に改定した料金体系の下での1年となりました。現場での混乱もなく、また、経営的にも料金改定は功を奏しています。 15年が経過したハイエースの更新のため日本財団の車両助成に応募しましたが残念ながら落選しました。 概ね予算内での活動ができました。	(コメント) 市は事業者に対して、車両維持のための負担金を支出しているものの、コロナやインフルエンザ等感染症の懸念が大きくある状況においては効率面の低下や燃料費の高騰など経費の増加もありました。また、事業の収支面において非常に厳しい状況下にありますが、移動に制約のある方の身近な支援サービスとして定着してきていることから、今後も、福祉車両の維持経費の一部負担や駐車スペースの確保、事業の広報などを行い、支援に努めてまいります。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 市から駐車場と備品の保管場所の提供を受けていることは、会の経営・運営・社会的信用上、不可欠です。 市主催での初めての認定運転者講習会の受講終了者の加入は4名ありました。 引き続きの主催を切に希望します。	(コメント) 広報やまとや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉の手びき」にも案内を掲載し周知に努めています。また、窓口でのご案内内容に応じて、事業者の連絡先を示して具体的にご案内をするよう留意しています。事業者と行政のそれぞれが役割を果たしました。 また、疑義が生じた際にも、事業者と市が連絡を取り合うことで、課題の共有を図り、安定した事業が展開されました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
経過等にも記載しているように新規利用入会は114名、月平均にすると9名強にのぼっています。ここ数年続いている傾向です。 一方で、継続した利用につながらないこともあり、早い段階で外出介助サービスの利用があれば自立した生活につながれたのではというケースもあります。広報にも課題があります。 また、ベッドtoベッド、車に乗り込むまでの段差や階段など、外出全体をとらえた介助付き移動サービスの理解が進むよう、情報交換や学びの場、人材育成が必要です。 重ねて記述しますが、メンバーの拡充が喫緊の課題です。 市主催の運転者講習会が実現したことを感謝するとともに、引きつづき福祉有償運送を協働事業で実施する意味と必要性を勧案し、市との連携・理解がより深まることを望みます。	利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化が進んでおり、世代交代や新規のメンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている法人ともに共通の課題であります。 市担当課として、法人の活動やこの事業が担っている意義について、より多くの市民にご理解いただき、より深く知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。 また、事業の担い手不足に関連する継続的な課題については、本課を含め関係部署と連携を図り、運転者講習会を端緒として、メンバーの拡充についてや今後の利用者の外出支援についても考えてまいります。

Ⅰ 〇．移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 大和市腎友会	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	21 年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 3,221,740円 市担当課の執行額（注2）： 177,776円	
事業の目的	身体障がい者・高齢者などの移動困難者が、外出時の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図れることを目的とする。	
事業の内容	福祉有償運送事業者として、福祉車両と自家用車でサービスを促進。 対象者は、介助なしでは、移動が困難な方で単独で公共交通機関の利用が困難な方のお手伝い。	
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	2024/5	令和5年度協働事業・市民活動推進補助金事業報告会で発表する。
	2024/6～8	令和6年度協働事業提案に参加
	2024/7	令和7年度以降の協働事業の継続申請が認められた。 21年間実施していた相模原市にある森下記念病院の透析患者の送迎サービス事業を終了。 (福祉車両10台→1台に)
	2024/8～	主に透析患者以外の利用者さんの個別送迎サービス事業（山桜会）に注力することになった。

(注1)：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

(注2)：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 夏以降、山桜会のドライバー獲得に注力。10月～11月に計2名の新しいドライバーを獲得しましたが、目立った利用者増までには至っていません。	(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念が続く中、物価上昇・価格高騰も続き、大変厳しい運営環境となっています。この事業のサービスを必要とする移動制約者(高齢者・障がい者等)の方々に対し必要な対策を取り、個別の要望を聞き入れたうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) <u>5</u> ・4・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 山桜会は、身体障がい者や要介護者の利用者さんが、安心して通院できるよう、利用者さんに寄り添ったサービスをしています。 特に、乗降時には、キメ細かい介助ができました。	(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念から、利用者が様々な不安を抱えており、それらからくる定期通院などの外出習慣を控える傾向を感じております。事業者は担い手不足等の課題がありながらも、個々の利用者の状況をきめ細かく把握し、この事業を必要とする方に対して、必要なサービスを提供し事業の実施・継続することに努めていただきました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・ <u>2</u> ・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 2023年10月に、送迎料金の改定はできましたが、全体的に物価・人件費の高騰があり、もう一度料金の見直しが必須です。	(コメント) 市は事業者に対して、車両維持のための負担金を支出しているものの、コロナやインフルエンザ等感染症の懸念が大きくある状況においては効率面の低下や燃料費の高騰など経費の増加もありました。また、事業の収支面において非常に厳しい状況下にあります。移動に制約のある方の身近な支援サービスとして定着していることから、今後も、福祉車両の維持経費の一部負担や駐車スペースの確保、事業の広報などを行い、支援に努めてまいります。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 市の広報等で外出介助サービスや実施事業者を知ったので、という問い合わせが複数件ありました。認知度や社会的理解度アップに繋がっていると思います。	(コメント) 広報やまとや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉の手びき」にも案内を掲載し周知に努めています。また、窓口でのご案内内容に応じて、事業者の連絡先を示して具体的にご案内をするよう留意しています。事業者と行政のそれぞれが役割を果たしました。 また、疑義が生じた際にも、事業者と市が連絡を取り合うことで、課題の共有を図り、安定した事業が展開されました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
透析患者の会を取り巻く環境は大きく変容してきている状況下(会員の高齢化、新会員減等)で今後の患者会活動をどうすべきか議論しましたが、今年秋頃を目途に弊会の解散を決定しました。 今後は利用者さんの意向を確認しながら円滑に事業を終了させることに注力します。	利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化が進んでおり、世代交代や新規のメンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている法人ともに共通の課題であります。 市担当課として、法人の活動やこの事業が担っている意義について、より多くの市民にご理解いただき、より深く知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。 また、事業の担い手不足に関連する継続的な課題については、本課を含め関係部署と連携を図り、運転者講習会を端緒として、メンバーの拡充についてや今後の利用者の外出支援についても考えてまいります。

ⅠⅠ．移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 たんぽぽ	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	18 年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 1,953,460円 市担当課の執行額（注2）： 44,444円	
事業の目的	○外出困難者への介助支援 ・障がい者・高齢者の移動制約者が外出の際の困難や不安感を軽減し安心して社会参加の促進がはかれることを目的とする。	
事業の内容	○特定営利活動有償移動サービス ・介助付きの外出サービス事業を安定して提供すること。	
令和6年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	令和6年4月1日	・送迎実績630件程度 ・スタッフ10名 ・定例会（毎月月末開催） ・総会（年1回） 障がい者・高齢者など、一人では外出できない移動困難者の方々に、外出する機会を得て頂きたいと考え、これまで事業を実施してまいりました。 我々の事業は、通常の公共交通機関の利用が難しい方たちの貴重な移動手段として意義ある活動と認識しております。 ※現在運転会員6名で実施しています。 稼働状況は、コロナやインフルエンザ等感染症の影響により、病院、介護施設など、限られた範囲であり、未だ自粛を強く感じます。

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念もあり、残念ながら新規利用者の増員が見込まれませんでした。	(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念が続く中、物価上昇・価格高騰も続き、大変厳しい運営環境となっています。この事業のサービスを必要とする移動制約者(高齢者・障がい者等)の方々に対し必要な対策を取り、個別の要望を聞き入れたうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 利用者の減少により収益が見込めず例年より減収減益となる見込みだが、利用者にとって安全で安心した外出サービスを提供できました。	(コメント) コロナやインフルエンザ等感染症の懸念から、利用者が様々な不安を抱えており、それらからくる定期通院などの外出習慣を控える傾向を感じております。事業者は担い手不足等の課題がありながらも、個々の利用者の状況をきめ細かく把握し、この事業を必要とする方に対して、必要なサービスを提供し事業の実施・継続することに努めていただきました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 燃料費の高騰および車両の維持管理による負担が増大していますが、収益減少を見込み事業規模を再考しつつ、事業を継続することができました。	(コメント) 市は事業者に対して、車両維持のための負担金を支出しているものの、コロナやインフルエンザ等感染症の懸念が大きくある状況においては効率面の低下や燃料費の高騰など経費の増加もありました。また、事業の収支面において非常に厳しい状況下にあります。移動に制約のある方の身近な支援サービスとして定着していることから、今後も、福祉車両の維持経費の一部負担や駐車スペースの確保、事業の広報などを行い、支援に努めてまいります。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5 4・3・2・1	(採点) 5 4・3・2・1
(コメント) 1.福祉車両券、タクシー券による利用者、及び事業者にとって、資金への援助と成っています。 2.一部の車両重量税、駐車場の提供おおいに助かっております。 今後も事業者と行政が共通の目的意識をもつことで円滑に事業を遂行できるよう努力します。	(コメント) 広報やまとや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉の手びき」にも案内を掲載し周知に努めています。また、窓口でのご案内内容に応じて、事業者の連絡先を示して具体的にご案内をするよう留意しています。事業者と行政のそれぞれが役割を果たしました。 また、疑義が生じた際にも、事業者と市が連絡を取り合うことで、課題の共有を図り、安定した事業が展開されました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
高齢化に伴い、若返りを図る必要があり、魅力ある組織作りが望む所です。 改善のポイントとしては、ドライバーや介助要員の確保のため報酬の見直し、それを実現する運賃改定が検討課題として挙げられます。 （運賃改定については、R5.10月に実施しました。）	利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化が進んでおり、世代交代や新規のメンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている法人とともに共通の課題であります。 市担当課として、法人の活動やこの事業が担っている意義について、より多くの市民にご理解いただき、より深く知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。 また、事業の担い手不足に関連する継続的な課題については、本課を含め関係部署と連携を図り、運転者講習会を端緒として、メンバーの拡充についての支援を考えてまいります。

Ⅱ 2. みんなでつくろう安心のまち事業

事業名称	みんなで作ろう安心のまち事業	
事業者	大和女性防犯会	
市担当課	大和市生活あんしん課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	15 年（令和6年度を含む）	
令和6年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 0 円 市担当課の執行額（注2）： 532,000 円	
事業の目的	防犯啓発や犯罪教育を協働事業者と協働で実施することにより、犯罪認知件数の減少を目指し、安心して暮らせるまちをつくることを目的とする。	
事業の内容	（1）防犯キャンペーン及びパトロールの実施 （2）防犯に関する座談会及び講演会の実施 （3）防犯広報資料の作成及び配布 （4）子どもの見守り活動、防犯教室の開催 （5）高齢者の被害防止活動と指導 （6）その他の防犯活動への参加と情報交換	
令和6年度事業 実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	2024.04.08(月)	新入学児童に対するキャンペーン (引地台小学校周辺) 啓発人数：80 人、スタッフ：5 人
	2024.04.10(水)	交通・防犯合同キャンペーン 一日警察署長による『子どもの安全確保』街頭啓発 (緑野小学校通学路・大和駅前) 啓発人数：500 人、スタッフ：12 人
	2024.04.15(月)	年金支給日振り込め詐欺撲滅キャンペーン (大和駅周辺) 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人

2024.04.26(金)	歓楽街夜間パトロール（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：13 人
2024.05.11(土) 05.12(日)	大和市民まつり防犯キャンペーン・パレード行進 （引地台公園平成広場） 啓発人数：4400 人、スタッフ：13 人
2024.05.24(金)	歓楽街夜間パトロール（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：13 人
2024.06.10(月)	防犯の日キャンペーン（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：11 人
2024.06.14(金)	年金支給日振り込め詐欺撲滅キャンペーン （鶴間駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2024.07.10(水)	防犯の日自転車盗撲滅キャンペーン （イオンモール大和） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2024.07.24(水)	夏休み子ども安全教室（下草柳会館） 啓発人数：50 人、スタッフ：4 人
2024.09.10(火)	防犯の日キャンペーン（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2024.09.23(月)	交通・防犯合同キャンペーン（イオンモール大和） 啓発人数：500 人、スタッフ：4 人
2024.09.27(金)	歓楽街パトロール（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：15 人
2024.10.12(土)	安全安心まちづくり旬間 パトロール出陣式 子ども一日警察署長キャンペーン（桜ヶ丘駅前） 啓発人数：500 人、スタッフ：13 人
2024.10.15(火)	年金支給日振り込め詐欺撲滅キャンペーン （大和駅前） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2024.10.17(木)	一日警察署長・一日警察官キャンペーン（やまと公園） 啓発人数：500 人、スタッフ：12 人
2024.10.25(金)	歓楽街パトロール（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：15 人 防犯の日キャンペーン（大和駅周辺）

2024.11.11(月)	啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2024.11.27(水)	交番の日キャンペーン（イオンモール大和） 啓発人数：500 人、スタッフ：11 人
2024.11.29(金)	県警本部・県女性防犯連絡協議会合同 一日警察署長講演会・キャンペーン （シリウスサブホール・大和駅前） 啓発人数：500 人、スタッフ：11 人
2024.12.02(月)	イルミネーション点灯式、一日警察官キャンペーン 歓楽街（大和駅周辺）パトロール 啓発人数：300 人、スタッフ：11 人
2024.12.07(土)	大和市安全なまちづくり推進大会 年末防犯キャンペーン（保健福祉センター） 啓発人数：200 人、スタッフ：13 人
2024.12.13(金)	年金支給日振り込め詐欺撲滅キャンペーン（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2025.01.10(火)	110 番の日・防犯の日キャンペーン（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2025.01.24(金)	歓楽街パトロール（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：11 人
2025.02.14(金)	年金支給日振り込め詐欺撲滅キャンペーン（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2025.02.16(日)	女性防犯会 研修（大和市環境管理センター） 講話受講「ごみの乱れと犯罪」 スタッフ：15 人
2025.02.28(金)	神奈川県消費生活課合同・悪質訪問販売撲滅キャンペーン（イオンモール大和） 啓発人数：500 人、スタッフ：10 人
2025.03.10(月)	防犯の日キャンペーン（中央林間駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：14 人
2025.03.28(金)	歓楽街パトロール（大和駅周辺） 啓発人数：200 人、スタッフ：11 人

（注 1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注 2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和6年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 防犯キャンペーンや夜間の歓楽街パトロール等を積極的に実施し、刑法犯認知件数は、前年に比べ減少傾向となりました。 特に昨年度まで多発していた自転車盗が減少しており、積極的な活動が功を奏したものと思ひ、今後の活動の励みになりました。	(コメント) 本市の刑法犯認知件数は昨年に比べ約11%減少しており、協働事業による啓発活動やパトロールが犯罪の抑止と市民の防犯意識向上に一定の効果があったものと考えます。 安心して暮らせるまちをつくるために継続した活動をしていきます。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 実施を予定していたキャンペーンやパトロール、見守り活動などについては、予定した方法により概ね実施することが出来ました。	(コメント) 夏場の酷暑や悪天候等により、防犯パトロール等を実施できない日もありましたが、概ね予定通りに実施することができました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 啓発品や郵送料の値上げに対し、配布物品や防犯活動の内容の見直しを行い、概ね予算通りに活用出来ました。	(コメント) 予算の範囲内で、啓発活動等を実施することができました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 協働事業に参画することで、市を通じて他団体との交流も生まれ、防犯活動の活性化や会員個人の活動のモチベーション維持に繋がっていると感じています。 また、連携することで防犯に関する新たな知識が得られ、さまざまな啓発活動に活かせるので、効果的な活動に繋がっているものと認識しています。 今年度、市にご手配いただいた大和市環境管理センターでの研修では、環境管理センターの役割や環境と犯罪の発生の関係性について講話を拝聴し、防犯について、違った角度から学ぶことが出来ました。	(コメント) 市民で構成された団体である協働事業者と犯罪情勢や防犯情報を共有して、共に考えて実施する各種啓発活動は有意義であり、活動外の場面でも防犯情報の拡散に期待できるため、市民の防犯意識の向上に効果的であったと考えています。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
自転車盗は減少したものの、特殊詐欺については、手口を変えながら発生が継続しています。 また、『闇バイト』関連の犯罪も増えつつあるので、これからも市と連携して、最新の犯罪発生状況に応じた防犯活動をしていきたいと思います。	特殊詐欺や強盗などの市民が不安を感じる犯罪が全国的に発生し、犯罪の手口も日々変化していることから、最新の犯罪情勢に即した防犯啓発の手法について、検討しながら活動していくことが重要と考えます。 今後も発生の抑止と市民の体感治安の向上のため、協働事業者と連携を密にした活動を実施していきます。



協働事業に関するお問い合わせは

大和市 つながり推進課 市民活動サポート係

☎046-260-5103

大和市民活動センター

☎046-260-2586